

作成日 2009年3月30日

修正日 2024年12月6日

## 製品安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	プロピオン酸ノルマル-ブチル、(n-Butyl propionate)
供給者の会社名称	アーク株式会社
住所	大阪市中央区安土町3-5-13 本町ガーデンシティテラス3階
電話番号	06-6563-7710
FAX番号	06-6563-7720
推奨用途及び使用上の制限	調香用補助材料(バター・ラム・果実系食品香料)

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類 分類実施日  
物理化学的危険性

JIS Z 7252、7253:2019 使用

火薬類	区分に該当しない
可燃性ガス	区分に該当しない
可燃性エアゾール	区分に該当しない
酸化性ガス	区分に該当しない
高压ガス	区分に該当しない
引火性液体	区分3
可燃性固体	区分に該当しない
自己反応性化学品	区分に該当しない
自然発火性液体	区分に該当しない
自然発火性固体	区分に該当しない
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	区分に該当しない
酸化性液体	分類できない
酸化性固体	区分に該当しない
有機過氧化物	区分に該当しない
金属腐食性化学品	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん)	区分に該当しない
急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない

環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性) 分類できない
	水生環境有害性 長期(慢性) 分類できない

GHSラベル要素  
絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報  
注意書き

警告  
引火性液体及び蒸気

【安全対策】

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源 から遠ざけること。ー禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地すること、アースをとること。

適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

火花を発生させない工具を使用すること。

【応急措置】

皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

火災の場合には、適切な消火方法をとること。

【保管】

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国・地域情報

3. 組成及び成分情報

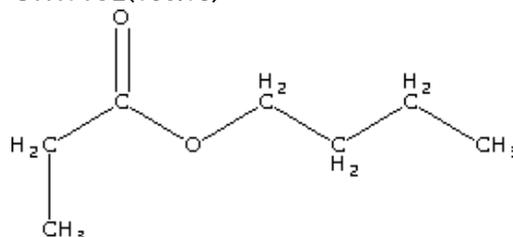
化学物質

化学名又は一般名  
別名

n-ブチルプロピオナート  
プロピオン酸ブチル、(Butyl propionate)、(Butyl propanoate)、  
(Propionic acid n-butyl ester)

分子式(分子量)  
化学特性(示性式又は構造式)

C<sub>7</sub>H<sub>14</sub>O<sub>2</sub>(130.18)



CAS番号  
官報公示整理番号(化審法・  
安衛法)

590-01-2

(2)-774

分類に寄与する不純物及び  
安定化添加物

データなし

濃度又は濃度範囲

100%

## 4. 応急措置

吸入した場合  
皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  
直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。  
皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

目に入った場合

目の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して  
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続ける  
こと。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

予想される急性症状及び遅発性症状  
最も重要な兆候及び症状  
応急措置をする者の保護  
医師に対する特別注意事項

経口摂取：腹痛、吐き気。  
データなし  
データなし  
データなし

## 5. 火災時の措置

消火剤  
使ってはならない消火剤  
特有の危険有害性

泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類  
棒状放水、水噴霧  
極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。  
消火後再び発火するおそれがある。  
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれ  
がある。

特有の消火方法

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

容器が熱に晒されているときは、移さない。  
安全に対処できるならば着火源を除去すること。  
適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

消火を行う者の保護

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および  
緊急措置

全ての着火源を取り除く。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離す  
る。

関係者以外の立入りを禁止する。  
密閉された場所に立入る前に換気する。

環境に対する注意事項  
回収・中和

環境中に放出してはならない。  
不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、  
化学品廃棄容器に入れる。

封じ込め及び浄化方法・機材  
二次災害の防止策

危険でなければ漏れを止める。  
すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火  
炎の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保  
護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気  
を行う。

安全取扱い注意事項

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源 から遠ざけるこ  
と。一禁煙。

火花を発生させない工具を使用すること。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

保管	接触回避 技術的対策 混触危険物質 保管条件  容器包装材料	取扱い後はよく手を洗うこと。 皮膚と接触しないこと 『10. 安定性及び反応性』を参照。 消防法の規制に従う。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 容器を密閉して冷乾所で保管すること。 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 データなし
----	---	--

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 許容濃度 (ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	未設定  日本産衛学会(2007年版) ACGIH(2007年版)	未設定 未設定 防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。
設備対策	呼吸器の保護具 手の保護具 眼の保護具 皮膚及び身体の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。 適切な保護手袋を着用すること。 適切な眼の保護具を着用すること。 適切な保護衣を着用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護具  衛生対策		

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状 形状 色 臭い pH 融点・凝固点 沸点、初留点及び沸騰範囲 引火点 自然発火温度 燃焼性(固体、ガス) 爆発範囲 蒸気圧 蒸気密度 蒸発速度(酢酸ブチル=1) 比重(密度)  溶解度  オクタノール・水分配係数 分解温度 粘度 粉じん爆発下限濃度 最小発火エネルギー 体積抵抗率(導電率)	液体 無色 りんご臭 データなし -89℃ : Merck (14th, 2006) 146.8℃ : Merck (14th, 2006) 38℃ (closed cup) : GESTIS (Access on Nov. 2008) 425℃ : ICSC (1998) データなし 1 ~ 約7.5 Vol% : GESTIS (Access on Dec. 2008) 0.38kPa (20℃) : ICSC (1998) 4.5(空気 = 1) : ICSC (1998) データなし 0.8754 (20℃) : Merck (14th, 2006) 0.8754g/cm <sup>3</sup> (20℃) : Lide (88th,2008) 水 : 1500mg/L (20℃) : SRC (Access on Nov. 2008) アルコール、エステル : 易溶 : Merck(14th, 2006) log P = 2.34 (推定値) : SRC (Access on Nov. 2008) データなし データなし データなし データなし データなし
--	---

## 10. 安定性及び反応性

安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	32℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。 強酸化剤と反応する。
避けるべき条件	32℃以上
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	爆発性混合気体
<b>11. 有害性情報</b>	
急性毒性 経口	List 3のラットLD50: 5000 mg/kg (RTECS(2002))のみであり分類できないとした。
経皮	List 3のウサギLD50: >14000 mg/kg (RTECS(2002))のみであり分類できないとした。
吸入	吸入(ガス): GHSの定義における液体である。 吸入(蒸気): データなし 吸入(ミスト): データなし
皮膚腐食性・刺激性	List 3のウサギを用いたドレイズテストでModerateのデータ (RTECS(2002))のみであり分類できないとした。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	List 3のウサギを用いたドレイズテストでSevereのデータ (RTECS(2002))のみであり分類できないとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作: データなし 皮膚感作: データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	データなし
生殖毒性	データなし
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	データなし
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	List 3のラット13週間吸入試験(RTECS(2002))データはあるが、特定臓器への影響を示すデータはないので分類できないとした。
誤えん有害性	データなし
<b>12. 環境影響情報</b>	
水生環境有害性 短期(急性)	データなし
水生環境有害性 長期(慢性)	データなし
<b>13. 廃棄上の注意</b>	
残余廃棄物	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
汚染容器及び包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
<b>14. 輸送上の注意</b>	
国際規制 海上規制情報	IMOの規制に従う。
航空規制情報	ICAO/IATAの規制に従う。
UN No.	1914
Proper Shipping Name.	Butyl propionates
Class	3
国内規制 陸上規制情報	消防法の規制に従う。

海上規制情報  
航空規制情報  
特別安全対策

船舶安全法の規制に従う。  
航空法の規制に従う。  
移送時にイエローカードの保持が必要。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。  
重量物を上積みしない。

緊急時応急措置指針番号

130

15. 適用法令

労働安全衛生法  
海洋汚染防止法  
消防法  
船舶安全法  
航空法  
港則法

危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)  
有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)  
第4類 第二石油類(非水溶性)  
引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1)  
引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)  
危険物・引火性液体類(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二ホ)

16. その他の情報

参考文献

各データ毎に記載した。